

都市再生整備計画 事後評価シート(案)
河辺・押入地区

平成31年1月

岡山県津山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岡山県		市町村名	津山市		地区名	河辺・押入地区(かわなべおしいれちく)			面積	84.3ha		
交付期間	平成24年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	959百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道拠点線、市道T19号線、市道T32号線)、地域生活基盤施設(排水ゲート(ポンプゲート))、高質空間形成施設(市道T37号線外4号線)										
		提案事業	地域創造支援事業:雨水排水路(河辺第二雨水幹線)、事業活用調査:事業効果分析										
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	交通事故件数	件/年	12	H23年度	9	H29年度	-	6	○	あり ○ なし	市道T37号線 外4路線の路面標示、カラー舗装の整備、市道T19号線、T32号線の道路拡幅、新設によって、交通事故件数の削減につながった。	平成31年11月予定
	指標2	歩行者空間整備に対する満足度	%	53.0	H24年度	47.7	H29年度	-	2.5	○	あり ○ なし	津山中央病院前の道路の新設、市道T37号線 外4路線のカラー舗装の整備、市道T19号線、T32号線の道路拡幅による歩道の確保によって、住民の安心・安全な歩行空間の確保への期待につながった。ただし、未供用区間があるため、供用開始後、一定の期間が経過した時期にアンケートによるフォローアップを実施する必要がある。	平成31年11月予定
指標3	浸水対策面積	ha	38.3	H23年度	23.5	H29年度	-	21.9	○	あり なし	河辺第二雨水幹線、排水ゲートの整備によって、河辺地区における浸水対策が必要となる面積の削減につながった。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
その他の数値指標1	なし												
4)定性的な効果発現状況	なし												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道 拠点線	274.0	規模L=390m	550.0	規模L=380m	道路規模減 事業費増	影響なし		●
道路	市道 T19号線	60.0	規模L=230m	116.0	規模L=230m	事業費増	影響なし		●
道路	市道 T32号線	70.0	規模L=130m	10.0	規模L=70m	道路規模減 事業費減	影響なし	●	
地域生活基盤施設	排水ゲート(ポンプゲート)	109.0	電動ゲートB1700× H1700 水中ポンプ300A× 11.0kw 2台	125.0	電動ゲートB2000× H1610 水中ポンプ400×18.5kw 2台	電動ゲート、水中ポンプ機能変更 有 事業費増	影響なし	●	
高質空間形成施設	市道T37号線外4路線	14.0	○市道T37号線 カラー舗装等L=360 m 路面標示等N=1交差 点他4箇所あり	14.0	○市道T37号線 カラー舗装等 L=360m 路面標示 等N=1交差点 他 4箇所あり	なし	影響なし		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし	
指標1	交通事故件数	件/年	-	-	12	H23年度	9	H29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	○	
									事後評価	確定 見込み	●	6	事後評価		
指標2	歩行空間整備に対する満足度	%	-	-	53.0	H24年度	47.7	H29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	○	
									事後評価	確定 見込み	●	2.5	事後評価		
指標3	浸水対策面積	ha	-	-	38.3	H23年度	23.5	H29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	○	
									事後評価	確定 見込み	●	21.9	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	市道の路面標示、カラー舗装の整備、道路拡幅、新設によって、歩行空間が確保されたことが交通事故件数の減少につながった。	
指標2	津山中央病院前の道路の新設、市道のカラー舗装の整備、道路拡幅による歩道の確保によって、住民の安心・安全な歩行空間の確保への期待につながり、目標値を大幅に上回る結果となった。フォローアップの必要があるが、津山中央病院前の新設道路が供用開始されることで、縁石がある歩道の活用により、さらに満足度が高くなると考えられ、1年以内の達成見込みはあると判断した。	前回調査の津山市立東中学校の対象者は20代以上であったため、平成29年度の調査についても同様に学生にアンケートをとるのではなく、職員の方等を対象とするように配慮した。
指標3	河辺地区は未整備であったが、河辺第二雨水幹線の整備によって、河辺地区における浸水対策が必要となる面積の削減につながった。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	なし		-	-			モニタリング	-	-		
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2	なし						モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3	なし						モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

特になし。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
河辺・押入地区事後評価検討会	都市計画課、【アドバイザー】、美作大学准教授(薬師寺明子)、津山警察署交通課(水田慎二)、津山商工会議所理事(植月優)、津山市消防団河辺分団(森岡廣行)	平成31年1月16日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指標名		交通事故件数(件/年)		歩行空間整備に対する満足度(%)		浸水対策面積(ha)			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道拠点線	-	市道の路面標示、カラー舗装の整備、道路拡幅、新設によって、歩行空間が確保されたことが交通事故件数の減少につながった。	○	津山中央病院前の道路、河辺高野山西線の新設、市道のカラー舗装の整備、道路拡幅による歩道の確保によって、住民の安心・安全な歩行空間の確保への期待につながった。	-	河辺第二雨水幹線、排水ゲートの整備によって、河辺地区における浸水対策が必要となる面積の削減につながった。		
	市道T19号線	◎		◎					
	市道T32号線	◎		◎					
	市道T37号線外4路線	◎		◎					
提案事業	河辺第二雨水幹線	-		-		◎			
関連事業	(都)河辺高野山西線	-		○		○			

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に

貢献しなかった。

-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確

なので、評価できない。

事故発生箇所を再度確認し、事故が発生しやすい箇所については、安全運転を促すなど危険箇所を周知するための定期的な情報発信に努める。

アンケートの結果を参考にし、より歩行空間の安全性を高めることにより、満足度の向上に努める。

河辺地区の残りの未整備箇所の整備を検討・実施することで、豪雨時においてもできる限り浸水しないよう対策を講じることに努める。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		なし												
指標名		なし												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類										
基幹事業														
提案事業														
関連事業														

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、
 ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
 明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
河辺・押入地区事後評価検討会	都市計画課 【アドバイザー】美作大学准教授(薬師寺明子)、津山警察署交通課(水田慎二)、津山商工会議所理事(植月優)、津山市消防団河辺分団(森岡廣行)	平成31年1月16日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地区内の交通の円滑化や事故防止対策	市道の路面標示、カラー舗装の整備、道路拡幅、新設によって、地区内交通の円滑化、事故防止対策につながった。		
歩行者の安全で安心な歩行空間の確保	市道のカラー舗装の整備、道路拡幅による歩道の確保によって、歩行者の安全で安心な歩行空間の確保につながった。		
地区内の適切な雨水排水対策	河辺第二雨水幹線、排水ゲートの整備によって、河辺地区における適切な雨水排水対策につながった。	河辺地区の残りの未整備箇所の整備を検討・実施することで、豪雨時においてもできる限り浸水しないよう対策を講じることに努める。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	人と車の交通を体系的に分離した整備	・交通事故の多発等を防止するために、道路空間の整備検討や、歩行者、自転車専用通行帯の整備など道路交通の安全に寄与する事業を推進する。	・事故危険箇所のハード整備 ・交通の円滑化に向けた整備検討
	バリアフリーに配慮した歩行空間の安全確保	・高齢化に伴い、高齢者や障害のある人等を含め、全ての人が安心・安全に地区内を歩行できるように、バリアフリー法に基づいた歩行空間の整備を推進する。	・バリアフリーを配慮した歩行空間の整備
	豪雨時における浸水対策の促進	2018年7月の西日本豪雨の影響も考慮し、想定外の雨量が発生した際も浸水しにくい対策を講じることに努める。	・河川整備の推進 ・周辺住民から豪雨時の状況のヒアリング

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	継続的な交通安全活動の実施	・自動車利用者向け事故多発箇所情報の提供 ・道路のハード整備に加え、走行する方自身の安全運転を心がける意識啓発のために継続的な交通安全活動の実施を行う。	・事故発生箇所マップの充実・周知 ・道路管理者、警察、市町等による事故再発防止に向けた連携
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・地区内の交通事故発生防止に向けてハード面の整備を進めてきたが、今後は合わせてソフト面の施策を検討していく必要がある。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	交通事故件数	件/年	12	H23	9	H29	確定 ●	見込み	6	○	あり			
指標2	歩行者空間整備に対する満足度	%	53.0	H24	47.7	H29	確定		2.5	○	あり ●	平成31年11月	未供用の区間が供用を開始し、一定の期間が経過した時期を見計らい、改めて津山中央病院、津山市立東中学校を対象としたアンケート調査による「地区内の歩行空間整備」に対して「不満」と回答した割合を計測する。	
							見込み ●	見込み			なし			
指標3	浸水対策面積	ha	38.3	H23	23.5	H29	確定 ●		21.9	○	あり			
							見込み	見込み			なし			
その他の数値指標1							確定							
その他の数値指標2							確定							
							見込み	見込み						
その他の数値指標3							確定							
							見込み	見込み						



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・ハード面での事業効果が十分に発揮された。	・事故発生件数といった毎月データが算出できる指標を選定することで事業効果があったか容易に確認できる。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・地区内でどの程度事故発生件数が減少したかを把握するための指標(交通事故件数)であったが、毎月データが算出できるため、交通危険箇所を容易に把握でき、安全対策が図りやすい。	・交通弱者となる高齢者を対象としたアンケートを実施することによって、バリアフリー化が必要である箇所が把握しやすいため、誰もが安心・安全に利用できる歩行空間の整備対策が立てやすくなる。
	うまくいかなかった点	・地区内の通勤者に対してはアンケートに回答いただいているが、交通弱者となる70代以上の高齢者からは意見が入っていない。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・アンケート調査では前回調査と同様の条件で実施することができた。	・計画段階から住民の意見・要望を受け、出来る限り計画に取り入れ、積極的に情報公開を行うことで住民参加のまちづくり事業を円滑に進めることができる。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	関係各課と横断的に情報共有を行うことができ、事業把握が的確に行われた。	・複数の課が携わる事業においてはPDCAを行う体制が必要である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

現在のところ、今後の交付金の活用予定はなし。ただし、津山まちづくりパワーアップ地区(平成29年度から平成33年度)を現在実施中である。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のHPに掲載	平成30年12月14日～12月28日	平成30年12月14日～12月28日	担当課への 持参、郵送、FAX、電子 メール、電子申請	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	窓口(都市計画課)での閲覧	平成30年12月14日～12月28日	平成30年12月14日～12月28日		

住民の意見	特になし。				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	美作大学准教授 薬師寺明子	平成31年1月16日	都市計画課	社会資本整備総合交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	津山警察署交通課 水田慎二、津山商工会議所理事 植月優、津山市消防団河辺分団 森岡廣行				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・「指標2：歩行者空間整備に対する満足度」については、平成24年度のアンケート調査結果と比較し、評価値が飛躍的に向上した。 ・要因として、この度整備した市道拠点線及び県事業による河辺高野山西線の整備により、緊急車両や通勤車両などのアクセス性向上に対する期待度が高いことが推察された結果であり、その妥当性が確認された。
	実施過程の評価	・「指標1：交通事故件数」については、「地区内市道のみならず、周辺の国道や県道の状況も踏まえて検討すべき」という意見が出された。 ・これに対して、今回の都市再生整備計画関連事業は市事業のみであるため、市道のみを評価しており、今後周辺の国道や県道の交通事故の状況も踏まえた評価について、フォローアップ計画内で検討する旨を説明し、了解を得た。
	効果発現要因の整理	・今回の事業により新たに病院、学校、大型商業施設等へのアクセス道路が整備されることにより、利便性・アクセス性が向上し、プラスの効果が発現することを説明し、了解を得た。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・「指標3：雨水排水対策につながる浸水対策面積」については、昨年7月の西日本豪雨災害のような予測を超える規模の出水なども危惧されることを踏まえ、今回事業のみならず複合的な対策を進めつつ、継続的かつ総合的な防災対策による被害軽減を目指す旨を説明し、了解を得た。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・交通安全対策の重要性に対する全国的な高まりを踏まえ、引き続き道路空間及び自転車歩行者空間の充実等を目指す旨を説明し、了解を得た。 ・今後予測を超える規模の出水なども危惧される中、河川の流下能力の確保に向けた適切な浚渫の必要性についても意見が交わされた。 ・継続的な交通安全活動に向け、河辺高野山西線の開通後、事故件数が増加する可能性も考えられることから、自動車交通量の変化を注視しつつ、市と関係機関との協働により、引き続き適切な交通安全対策に取り組む旨を共有した。
	フォローアップ	・フォローアップ計画については、妥当であると確認された。
	その他	・バリアフリーに配慮した歩行空間の安全確保として、市道拠点線は横断勾配が急な区間もあり、路肩部分の危険性について意見が出されたが、今回の事業内にて転落防止柵設置し、点字ブロックも現在工事中である旨を説明し、了解を得た。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は、妥当であると確認された。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画

かわなべ おしいれ ちく だい かいへんこう
河辺・押入地区(第4回変更)

おかやまけん つやまし
岡山県 津山市

平成30年 1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	おみやぎけん 岡山県	市町村名	つやまし 津山市	地区名	かわなべ ぬしいちやく 河辺・押入地区	面積	84.3 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 29 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 29 年度				

目標
 地区内交通の円滑化や安全対策及び雨水排水対策による都市機能の強化

目標1： 著しい交通量の増加に対する交通の円滑化や事故防止対策、安全な歩行空間の確保を行い、誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。
 目標2： 地区内に不足している雨水排水路を整備し、誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 河辺・押入地区は津山市街の東部に位置し以前から田園地帯として発展していたが、昭和49年の中国自動車道津山I.Cの開設を機に急速に市街化が進んだ地区である。
- 交通の利便性の良さから同地区には工業施設や商業施設、医療施設等の立地が進み、平成8年の大型複合商業施設の出店を機に更なる商業施設等の集積が進み同地区への来訪者が飛躍的に増加している。
- さらに、平成11年には県北の医療を担っていた国立療養所津山病院から経営移譲を受けた津山中央病院が開院し、災害拠点病院あるいは第三次救急救命医療施設として広域医療の重要な役割が期待されている。
- 今後も津山市の東の玄関口として、更なる発展が期待される地区である。

課題

- 近年、本地区に医療施設や教育施設並びに工業・商業施設が急速に集積した結果、地区内に流入する交通量が飛躍的に増加し交通渋滞や交通事故の頻発により歩行者等が危険にさらされていることから、地区内の交通の円滑化や事故防止対策、歩行者の安全で安心な歩行空間の確保が緊急の課題となっている。
- また、本地区では急速に市街化が進んだことによる遊水池の減少により豪雨時には浸水被害も発生していることから、地区内の適切な雨水排水対策も緊急の課題である。
- そこで、本地区の交通円滑化や安全・安心な歩行空間の確保に資する道路として計画されている(都)河辺高野山西線【岡山県事業】が平成23年度から事業着手されたことに併せ、一体的に機能する広域医療施設等へのアクセス道路の整備や幅員狭小・線形不良等に起因する交通危険箇所の改善、さらには主要な歩行経路の安全確保並びに雨水排水対策を実施することで誰もが安全・安心に暮らせる都市環境の向上を図るものである。
- なお、広域医療施設等へのアクセス道路については、一体的に機能する(都)河辺高野山西線の供用開始予定が平成30年度であるため、本計画期間中の接続は困難な見通しであるが、接続できない間も県道上横野兼田線から広域医療施設等への歩行経路として有効に機能するため早期の整備が求められている。

将来ビジョン(中長期)

- 平成20年3月に策定した津山市都市計画マスタープランでは、まちづくりのテーマを「歴史と文化を未来へつなぐ緑あふれる環境都”津山」とし、主要目標として①県北の中心都市にふさわしい活力ある都市、②自然と共生するまともりある都市、③特色ある資源をまちづくりに活かした魅力的な都市、④子どもから高齢者、障害者等すべての人にやさしい都市、⑤明日を担う人材の育成 の5つを掲げている。
- 地区別構想の津山市東部のまちづくり方針は、「土地利用の方針」として津山I.C周辺や国道53号沿線に集積している沿道型商業サービス施設や周辺の工業・業務施設を合わせた利便性の高い複合的な土地利用を図ることとしている。また、「安全・安心のまちづくりの方針」として①交通安全対策として事故多発地点や危険箇所における交差点改良や交通安全施設の設置等を関係機関との協力のもとに促進する、②県北唯一の救急救命病院であり圏域の医療拠点である津山中央病院へのアクセス道路の強化や公共交通サービスの向上を図ることとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
交通事故件数	件/年	地区内市道での人身事故件数	交通の円滑化や事故防止対策の効果を定量的に把握するための指標。地区内市道での年間事故件数を2割削減することを目標とする。	12	平成23年度	9 平成29年度
歩行空間整備に対する満足度	%	主要な歩行経路の歩行空間整備に対する満足度	安全・安心な歩行空間の整備効果を定量的に把握するための指標。整備前、後に地区内の居住者・就労者等にアンケート調査を実施し「不満」と回答した割合を1割削減し満足度の向上を目標とする。	53.0	平成24年度	47.7 平成29年度
浸水対策面積	ha	地区内の内水浸水対策が必要な面積の削減	当該地区の浸水対策の整備効果を定量的に把握するための指標。地区内の内水浸水対策が必要な面積を約4割削減することを目標とする。	38.3	平成23年度	23.5 平成29年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1】 著しい交通量の増加に対する交通の円滑化や事故防止対策、安全な歩行空間の確保を行い、誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。 ・広域医療機関等へのアクセス道路を整備し、県道上横野兼田線から医療機関等への安全・安心な歩行経路並びに歩行空間を確保する。(※都市計画道路河辺高野山西線が完成した際には緊急車両等の円滑な通行や歩行者等のより安全な通行経路が一体的に確保される。) ・幅員狭小や道路線形が悪いこと等による交通危険箇所の改善。 ・交差点部の路面標示やカラー舗装による事故防止対策並びに主要な歩行経路の路側にカラー舗装を実施し歩行空間を明示する。</p>	<p>【基幹事業】 《道路》 ・市道拠点線 整備事業 ・市道T19号線、市道T32号線 整備事業 《高質空間形成施設》 ・市道T37号線外4路線 路面標示、カラー舗装など</p>
<p>【整備方針2】 地区内に不足している雨水排水対策を実施し誰もが安全・安心に暮らせる都市環境を整備する。 ・急速な開発により不足している地区内の雨水排水機能の確保。</p>	<p>【基幹事業】 《地域生活基盤施設》 ・排水ゲート(ポンプゲート) 整備事業 【提案事業】 《地域創造支援事業》 ・河辺第二雨水幹線 整備事業</p>
<p>その他</p> <p>○交付期間中の計画管理について 交付期間中における事業実施及び調整については、岡山県並びに市内部の関係部局による横断的な組織において計画管理を行う。 なお、事業実施状況や数値目標の達成状況については、広報誌や市のホームページ等を利用し随時市民に公表する。</p> <p>○円滑な事業実施の環境 基幹事業である市道拠点線の整備については、以前から津山中央病院や地元町内会等より早期整備に対する要望を受けており地元関係者等の事業熟度は高い。また、平成23年度から岡山県が事業着手した都市計画道路河辺高野山西線と一体的に機能する道路であるから、同時期に当該事業に着手することで円滑な事業の推進が図られる。</p>	

